

新庁舎整備に関するシンポジウム「つながる建築～古墳とまちの未来～」

<開催概要>

●令和6年9月7日(土) 14時～15時30分

●LICはびきの ホールM

<一般来場者数>

●357名



新庁舎整備に関するシンポジウム「つながる建築～古墳とまちの未来～」

9月7日(土)に羽曳野市立生活文化情報センター（LIC はびきの）にて開催しました。

現庁舎（本館）は、震度6強の地震に対して「倒壊または崩壊する危険性が高い」と診断されているほか、建築から50年が経過し、建物の内外装や設備等の老朽化が進んでいます。様々な課題を抜本的に解決するため、市では令和6年3月に「羽曳野市本庁舎建替整備基本計画」を策定し、建替えによる新庁舎整備を行うこととしました。

今回のシンポジウムでは、市内外からご来場いただいた400名近い参加者の皆さまに事業の概要についてご説明するとともに、新庁舎の基本設計を担当する隈研吾建築都市設計事務所より建築家の隈研吾氏にご登壇いただき、基本設計の中間報告・講演、市長との対談などを行いました。



<本庁舎建替整備の概要説明>

令和4年度から開始した本事業について、改めて事業全体の概要説明を行いました。現庁舎の課題、新庁舎整備の基本方針、施設計画や全体スケジュールについてご説明しました。

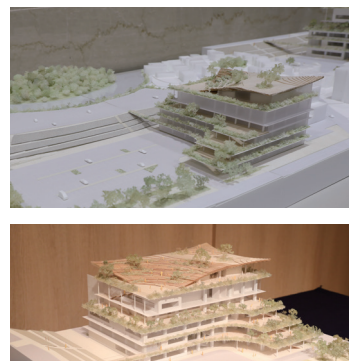
<基調講演>

隈研吾氏より、基本設計の中間報告と、世界遺産に隣接する敷地で設計することに関する想いなどについて講演いただきました。

隈氏は、今回羽曳野市に興味をもったきっかけとして「古墳が多くあるまちで、市役所も古墳のすぐ隣にあることを知り、世界遺産のすぐ隣で市役所が建てられることはそうそうないと考えたから」とし、「大阪市内から20分でアクセスできる距離にもかかわらず、世界遺産や歴史文化、緑がある環境は大変魅力がある」と語られました。

また、新庁舎の設計については、「回遊性のある市役所」を大きなテーマとして挙げられ、「グリーンストリート」と名付けられた歩道の緑が庁舎、さらに屋上に向かってつながっていくという構成や、内部についても、「今までの「お堅いイメージ」の市役所ではなく、くつろげる雰囲気空間にしていきたい」と、イメージパースを用いてご説明いただきました。新庁舎の大きな特徴でもある屋上「古墳の丘テラス」については、テラスの緑と古墳がつながるイメージでデザインされているといい、シンポジウムのために制作された模型も用いてご紹介いただきました。

その後、今まで隈氏が手掛けられた多くのプロジェクトについて、設計におけるコンセプトや今回の羽曳野市新庁舎の設計にも活かされているアイデアも含めて講演いただき、参加された方々は興味深く聞き入っておられました。



<対談>

続いて、山入端市長も登壇し、隈研吾氏との対談が行われました。山入端市長からの「新庁舎がどのような場所になることを想定しているか?」といった質問に対し、隈氏からは「新庁舎が交流の場所として、グリーンストリートから庁舎内部に続き、ギャラリーから最上階の展望スペース、屋上テラスへとつながるということが理想。市民や市外から来た方にとっても交流ができる魅力的な場所となるようデザインしている。」とのお話や、広場については、「ただ美しいだけでなく子どもからお年寄りまで楽しめるようなディティールを考えていきたい。」というコメントがありました。それに対し、「現在も庁舎敷地内で世界遺産に関するイベント等を開催している。新庁舎では屋上に上がっていただいてイベントができたら楽しいと思うので、これからも市民の皆さんと一緒に考え、皆さんに愛される市役所づくりをしていきたい」と市長が応えました。

<質疑応答>

最後は、事前に募集した質問のご紹介とそれに対する回答のコーナーです。質問が読み上げられ、隈氏と市担当者がそれぞれ回答を行いました。

隈氏に対しては「世界遺産に対する設計上の配慮について」などの質問、市に対しては「防災面での対応」、「事業費について」などのご質問をいただきました。限られた時間の中ではありましたが、新庁舎について理解を深めていただくよい機会となりました。

今回はシンポジウムという形で基本設計の中間報告をするとともに、アンケートやご質問によって市民の皆さんからご意見をお伺いしました。

引き続き情報発信を行い、皆さまからのご意見を取り入れながら、新庁舎整備を進めてまいります。

シンポジウムについて
こちらから→



【問合せ】管財用地課庁舎整備推進室